

地理・歴史

- 面積 約38,744km²（全国の約2%）
- 州都 バンジャルマシン
（2011年より、州政府庁舎はバンジャルバル市内に移転）
- 地方自治体 2市・11県
（バンジャルマシン市、バンジャルバル市、タナ・ラウト県、コタバル県、バンジャル県、バリト・クアラ県、タピン県、北フル・スンガイ県、南フル・スンガイ県、中フル・スンガイ県、タバロン県、タナ・ブンブ県、バランガン県）
- 人口 432.3万人（2024年）
- 種族(2010年)
バンジャル(74.3%) ジャワ(14.5%)
ブギス(2.0%) ダヤック(1.9%)、マレー等
- 宗教(2024年)
イスラム教 96.6% プロテスタント 1.4%
カトリック 0.6% ヒンドゥー教 0.6% 仏教 0.3%
- 時間帯
日本時間 -1時間（インドネシア中部時間）

- 伝承によるとインド起源の創始者が12世紀頃、バンジャル族の王国を建て、16世紀に現在のバンジャルマシンに宮廷を移し、イスラム化したとされる。1787年にオランダ東インド会社の属領になり、1860年に同王朝が廃止された。
- インドネシア独立戦争の時期は、オランダが設立した「東インドネシア国」に組み込まれていたが、1950年に同国の消滅を受け、カリマンタン地域全域が「カリマンタン州」となった。
- 1957年に、南・中・東カリマンタンに3分割され、さらに、1959年、コタバル地区の北部が南カリマンタン州から分離し、東カリマンタン州に合併されている。



行政・政治

- 南カリマンタン州
知事 :ムヒディン（前南カリマンタン州副知事）
副知事:ハスヌリヤディ・スライマン（前国会議員）
※1期目。任期は2025年～2030年
- 州発足記念日 1950 年8 月14 日
（「カリマンタン州」の設立日が南カリマンタン州設置日と制定されている。）
- 州議会（全55議席）(2024-2029)

政党名	議席数
ゴルカル党	13
ナスデム党	10
グリンドラ党	7
国民信託党	6
民族覚醒党	6
福祉正義党	6
闘争民主党	3
民主党	3
開発連合党	1

経済

- 州内名目GDP 286.6兆ルピア（2024年/州統計局）
一人当たり名目GDP 67.1百万ルピア（2024年/州統計局）

- 経済成長率（対前年比）

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018
全国	5.03	5.05	5.31	3.7	-2.07	5.02	5.17
南カリマンタン	5.05	4.84	5.11	3.48	-1.82	4.09	5.08

- 主要産品 ダイヤモンド、ゴム、石炭

- 貿易（2024年/州統計局）
輸出 116.6億ドル (1) 中国(40.2%)、(2)インド(13, 7%)、(3) マレーシア(10,12%)
輸入 20.6億ドル (1) マレーシア(48,0%)、(2) シンガポール(38.8%)、(3) 中国(4,4%)

- 外国投資（2024年） 5.5億ドル
(1) 香港（41.8%） (2) シンガポール（35.9%）(3) 英領バージン諸島(6.8%)

- 日本語学習者数 3,755名。18校の高校で日本語の授業を実施。(2021年国際交流基金調査)。
- インドネシア元日本留学生協会(プルサダ)南カリマンタン支部は、2019年設立し、会員23人(2022年10月現在)。現会長は元コタバル県副知事のアフマド・リザリ氏(北海道大学大学院卒)。
- バンジャルマシンの水上マーケット、南フル・スンガイ県の湿原、バンジャルバル市チェンパカ地区のダイヤモンドの採掘場などが主な観光スポットとされる。



南カリマンタン高校日本語教師会及び
サリ・ムリア大学日本語講師の方々



バンジャルマシンの水上マーケット



南フル・スンガイ県の湿原

日本との関係

- 1988年に、東南アジア友の会により設置された日本人慰霊碑(写真右)。慰霊碑には、「招魂 此処に眠る高橋政義・早田清高両氏他多くの日本人の冥福を祈りインドネシアの繁栄を願う」との記載がある。



経済協力

- リアムカナンダム建設 (1968～1971)
- バリトー川河口浚渫(1973～1974)
- 中フルスンガイ県における食糧安全保障政策立案・実施支援プロジェクト(2005～2008)
- バンジャルマシンにおける輸出振興機関の機能強化(2007～2008)
- 南カリマンタン州における前期中等教育の質の向上プロジェクト(2009～2013)